

研究の背景と目的

子どもが最初に触れる代表的なメディアの一つであるヒーロー番組は、子どもの教育的影響に非常に影響的であり、幼児期の人格形成に影響を与えていると考えた。

本研究は、幼児期と現在で、理想の人間像がどれだけ変化したかを調べ、子どもの時にあこがれていたヒーロー像が現在の人格形成に影響を与えているのかを調査したものである。

※この研究でのヒーローとは、主に仮面ライダーを対象とした。

研究方法

研究方法として、子どもの頃のヒーロー像に関するアンケートを行った。

<調査対象>

大学生

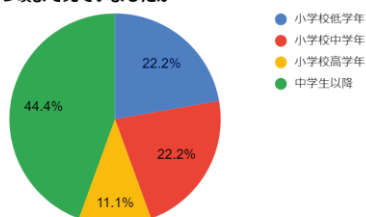
<調査方法>

Googleフォームにてのアンケート

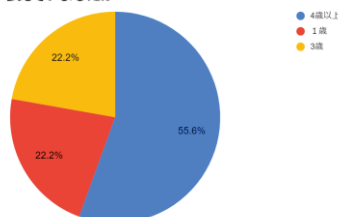
- ①仮面ライダーを見たことがあるか
- ②いつからいつまで見ていたか
- ③見ていた理由、見なくなった理由
- ④好きなライダーとその理由
- ⑤ライダー以外の番組の好きなキャラクターとその理由
- ⑥子どものころどんな大人になりたかったか
- ⑦今の理想の人間像

調査結果

いつ頃まで見ていましたか



いつ頃から見ていましたか



・周りの人たちが見ていたから、戦っている姿がかっこよかったからという理由で当時見ていたという理由が多くみられた。反対に見なくなった理由として多かったのは、周りの友達が見なくなった、子ども向けで幼稚だと思ったというものだった。

・子どもの頃の理想の人間像には誠実な大人、子ども心を忘れない大人、人を助けることのできる大人、父のような強くたくましい大人になりたかったという回答があり、現在の理想像には、なにごとにも何事にも意欲的な大人、リーダーシップのある人間、自分の価値観などを押し付けず相手を助長する働きを促す人間などという回答があった。

まとめ

考察

子ども時代と現在の理想の人間像を比較したときに、子ども時代には誠実な大人、父のように強くたくましい大人、足が速く力が強いカッコいい大人など、どちらかというと自分中心で考えている人が多かった印象があった。それに比べると現在の理想像ではリーダーシップのある人間だったり、相手を助長することを第一にしていたりすることから自分を中心にせず、周りにいる人たちと協力して生きていくことを理想にしている人がほとんどであり、ヒーロー番組においても見ることができる「仲間の大切さ」というものが当時は理解することはできなかったかもしれないが、長い年月をかけ、いろいろな経験をして身をもって実感していったのではないかという風に考えた。

反省点・今後の課題

調査時間を多くとる事が出来なかったためライダーを見たことがない人のデータをとる事が出来ず、比較をすることが出来なかった。また、子どもの頃の理想像を覚えておらず、特にないという風な回答も何人か見られたため、子どもたちを対象にすることが出来れば、ヒーロー像が反映されているかがより分かりやすかったかもしれないと思った。